



一燈

ITTOU-RISSHI
NO KAI

五志の会

いっとうりっしのかい



活動報告

第7号

高知県議会議員 大石宗政報告

大石宗政の
土佐日記

発行／高知県議会「燈立志の会」発行日／二〇二三年三月

令和5年は

飛躍の
年に
!!!!



令和5年、癸卯(みずのとう)の年が始まりました。

昨年は一昨年から猛威を振るっていったコロナ感染症のフェーズも少しずつ変化し、ウィズコロナの新たな取り組みも随所で進んで来た年になりました。また海外の状況などをみても、本格的にアフターコロナの足音が聞こえてきつつあります。そのような中、癸卯の年が始まりました。

この干支の意味するところを調べると、十干の最後となる「癸」は生命の終わりを意味するところにも、次の新たな生命が成長し始めている状態を意味しているところでもあります。

さらに「卯」は「さかむね」

「跳躍」という意味であることから、これまで状況が変わり、新たに成長する、そしてこれまで培ってきた実力が



試される年になると言われています。

今年が平成31年の選挙で当選してから4年の任期が終わる年です。

まさにこの4年間の取り組みの評価が問われる年であると同時に、未来を大きく飛躍させていく年でもあります。

4月に行われる統一地方選挙では、この4年間のコロナ対策を始めとする政策の評価とアフターコロナを見据えた県政発展策について大いに議論しなければなりません。この4年間で高知県の人口はなんと3万人も減りました。

一方、コロナ対策もあり、県の予算は平成に入って以降最大規模の予算が続ぎ、4年間で約2兆円のお金が使われています。

これを有権者約59万人で割ると、1人あたりの1票の重みは約340万円となります。選挙権を持つ4人家族なら1400万円近くのお金となります。

我が国は国民主権、民主主義が基本とされていますから、ある意味こういって予算の金主、オーナーは県民です。しかし、知事が提案した使い道について、全県民から意見を聞くことが出来ないため、代表して使途をチェックし、使い方についての提案も行う、そして最終的にお金を使っているよ、と認める、あるいは認めないという重い役割を果たしているのが県議会議員です。県議会の過半数が認め

ない、と反対すれば、それが県民の意志となり、その予算は使うことは出来ません。つまり、県議会議員は県民の分身です。

冒頭書いた通り、高知県は人口減少をはじめ厳しい課題に直面しています。

一方、コロナ禍でもデジタル化などが進み、都市部ではなく地方で生活しても問題ないからと企業移転や移住を検討するなどの新しいチャンスも生まれています。

そんな中、県民の分身としてどのような議員に活動させるのか、4年に一度の選択の機会が統一地方選挙です。

この選挙戦にぜひ注目し、各候補者の政策などを見極めてもらう、そういう意味での競争を経た上で思いを託してもらおうことが大切です。

昨年はサッカーのW杯が盛り上がりましたが、スポーツにおける選手とファンの関係と同じで、厳しい有権者の目が、政治家を鍛える、そして鍛えられた政治家が増えれば増えるほど政治は活性化すると確信します。

ぜひ春の統一地方選挙にご注目頂ければと思います！

総力結集、高知を興す。

無限大 88

さあ、投票へ

一燈 五志の会